

第 2 2 回基本制度部会 意見等の概要

平成 2 1 年 1 0 月 7 日

(1) 建築分科会への諮問「安全で質の高い建築物の整備を進めるための建築行政の基本的あり方」について

●【建築家の視点】(株)坂茂建築設計 坂茂氏

- ・ 質の高い建築を実現するには質の高い建築家を育てる教育が重要である。
- ・ 米国の建築教育では日本の場合に比較してスタジオ、模型室での模型製作カリキュラムが充実しており、全員にワークスペースが与えられ討論やプレゼンテーションを含めた教育を行う。
- ・ 米国にはレクチャーシリーズという教育システムがあり、世界中の建築家を招いて講演会を開き、聴講できる機会が設けられている。
- ・ 研究室（ゼミ）は日本に独自の優れた教育システムであり、一貫した指導の下で長期的なプロジェクトに関わることができる等のメリットがある。
- ・ 日本では小規模個人住宅の設計機会が多く、若い設計者にとり貴重な経験となっているという意味では優秀な建築家を育てる教育システムとなっている。
- ・ 海外からは特命指名による仕事の依頼が非常に多い。
- ・ 日本の指名コンペでは、過去の実績、事務所規模等により応募資格が極めて限定され、広くチャンスがないことが問題である。
- ・ 設計・施工チームの作り方にも日米欧で違いが見られる。日本では普段から関与しているエンジニアやコンサルタントを選択することが多いが、マニユファクチュアの衰退した米国ではサブコンを海外に委託するケースが多い。欧州では広く最適なエンジニアを選択する環境が整っているため、プロジェクトを通じて最適なチームを組んで最適な技術を集積できる体制があるといえる。
- ・ 木造建築は環境負荷、再生可能性の面で非常に優れている。スイスやドイツでは木造建築についての教育システムが整備されている。スイスには木造専門の大学があり、木造の設計、構造設計、新技術の開発を柱に教育を行っている。

●【建築史の視点】青山学院大学教授 鈴木博之氏

- ・ ウィトルウィウスのいう「強」Firmitas は建築の構造的強度の意だけでなく、耐久性の意も含んでいる。現在の日本の建築教育では構造強度について非常に丁寧になされている一方、耐久性についての教育が不足している。
- ・ 建築の質を考える上では、良い建築物を作り「継続」という視点が必要。
- ・ イギリスの開発許可制度は現状をベースとした個別審査に近い形をとっており、建築の質を維持するとともに、その中で新しい質を開発することに重点が置かれている。
- ・ 日本の確認申請では法適合のみを判断基準とし、確認申請により違法性がないことのみが開発の拠り所となるが、建築の質を議論するには周囲の環境も含めた多元的な判断を行う必要がある。
- ・ いつの時代もその時点の建築の価値が永続することはなく、現在の建築の質を

見極め、質の高い建築が集成することで良好な都市環境が形成される。

- ・東京中央郵便局の例に見られる通り、長寿命な建築には機能の更新性が高いことが必要である。
- ・建築の質は時代と共に変化し、現在の質は絶対ではない。質の高い建築を見出す努力を行い、それを生かし、質の高い建築が点綴する都市を形成することが建築の質を向上させることである。
- ・日本の文化制度は築後50年を基準としているが、質の高い建築を維持するには築後50年間に至るまでの様々な支援が欠かせない。様々な立場から建築の質を発見し、それを維持していくことによって、質の高い建築が整備される。

(2) 委員との意見交換

- ・ドイツ、スイス、オーストリア等では行政が法整備の面で木造建築を理解し支援することにより、木造建築の優秀な設計者やエンジニアが育っている。
- ・日本でも社会で活躍中の建築家を招いた教育システムの事例が少しずつ出てきており、教育システムの教える側の質は向上していると感じるが、教育スペースの問題は全く改善される傾向にない。
- ・日本、米国、欧州で仕事を進めるにあたり、資格制度の違いにより支障を感じることはない。
- ・米国では建築についても些細なことで訴訟に至るケースが多く、新しい建築や技術の導入が困難な環境となっている。
- ・一つ一つの建築が維持しても、周囲の都市環境が持続しなければ意味はない。単体としての保存制度に加え、都市環境の質を維持するために社会全体でどのような負担を担うかについての合意形成が必要。
- ・アトリエ系、ゼネコン、設計事務所には各々特徴があり、3者は共存する必要がある。アトリエ系では設計者のスタイルに合わせた発注が多く、アイデンティティをいかに確立するかが課題となるが、ゼネコンや設計事務所ではクライアントに合った設計者を指名することとなる。
- ・質の高い建築物を実現するには先例に倣うだけではなく、現在きちんとした建築を作り、継承すべきものを継承する姿勢が必要である。
- ・建築の場合には、市場原理に任せた短いサイクルでの質だけでなく、長いサイクルでの質を考えなければならない。国が正しいルールやモデルを提示することが重要である。
- ・サステナブル建築物については、グローバル環境についての意味合いの他に、建築物自体の持続可能性（長寿命性）、文化の持続可能性についての意味づけもできる。